

# 大学自己評価部会だより

第11号 (平成21年5月)

## 大学の理念

1. 高度な専門性を持った歯科医師の育成
2. 地域医療の中核的役割を果たす
3. 歯科医学を支える研究の推進

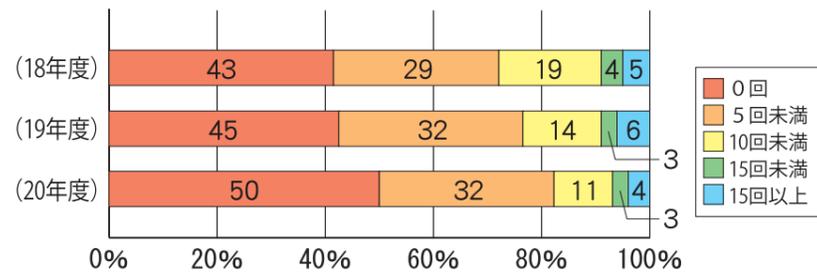
## アンケート調査結果を報告

平成20年度末に第3回目のアンケート調査が行われました。今回は主として心身の健康や自主学習について、とくに3年間で有意に変化が認められた内容について報告します。有意差を示すP値にはKruskal-Wallis検定を用いました。

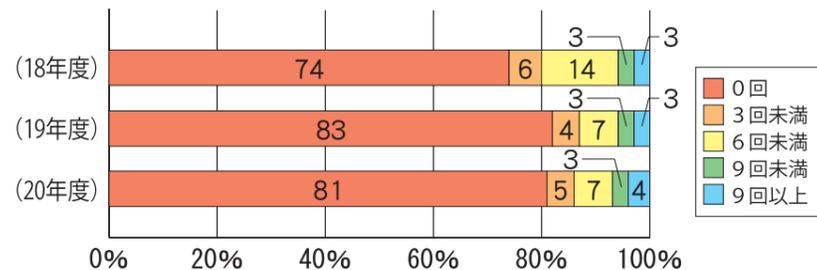
### 1) 心身の健康

健康管理室もカウンセリング・ルームも、この3年間の利用率は少しずつですが次第に減少傾向にあります。

健康管理室を利用したことがありますか。(p=0.026)



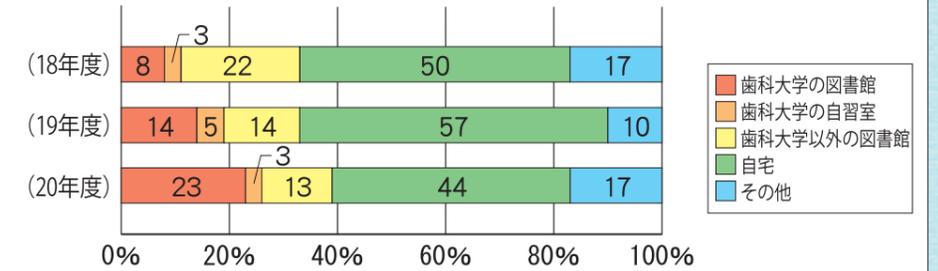
本学でカウンセリングを受けたことがありますか。(p=0.019)



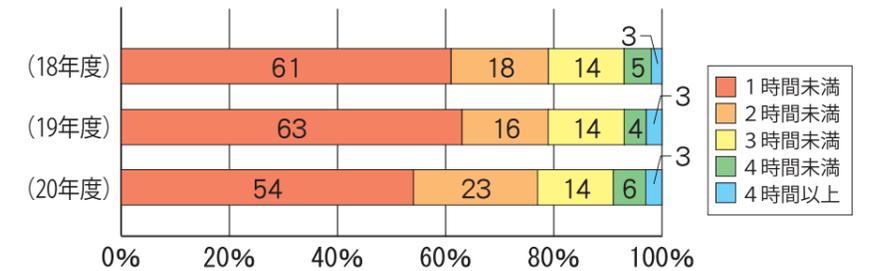
### 2) 自主学習

図書館の利用時間改善を行ってきた結果、明らかに歯科大学の図書館の利用率が高まりました。自主学習時間もやや増加の傾向にあります。しかし、自習室の利用は低迷しています。

土日・祝祭日など、大学が休みの時の自主学習は主にどこを利用しますか。(p=0.024)



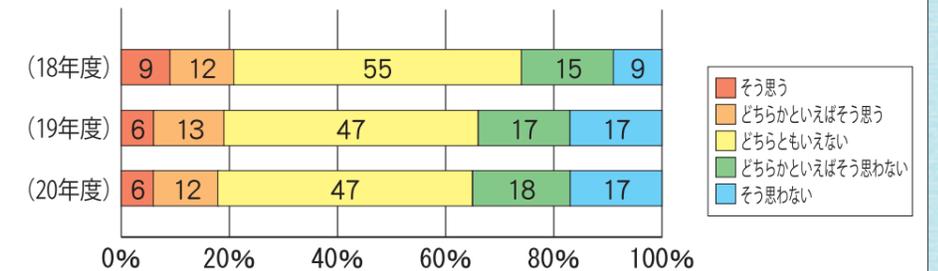
試験勉強を除くあなたの自主学習時間は、1日平均何時間ですか。(p=0.026)



### 3) 学生のニーズの把握

大学が学生のニーズを把握していると思う割合は、残念ながら少しずつ減少傾向にあります。

本学として、生活での皆さんのニーズを適切に把握していると思いますか。(p=0.012)



## 図書館の利用時間の拡大

図書館では利用時間帯に関して、以下のように拡大してきました。

- ・平成13年度まで・・・平日9:00～17:00開館(土日・祝祭日は閉館)
- ・平成14年度から・・・平日9:00～20:00開館延長(土日・祝祭日は閉館)
- ・平成19年度から・・・平日9:00～20:00開館、土日12:00～17:00開館開始
- ・平成20年度から・・・平日9:00～22:00開館延長、土日12:00～20:00開館延長

このように、これからも学生の皆さんの要望に、可能な範囲で応えていきます。

# 大学自己評価部会だより

第12号 (平成21年7月)

## 大学の理念

1. 高度な専門性を持った歯科医師の育成
2. 地域医療の中核的役割を果たす
3. 歯科医学を支える研究の推進

## アンケート調査結果を報告

本学のアドミッションポリシーを知っているかどうか平成19年度と20年度で比較しました。

## アドミッションポリシー (歯学部)

歯学部では、大学の掲げる3つの基本理念「高度な専門性をもった歯科医師の育成」「地域医療の中核的役割を果たす」「歯科医学を支える研究の推進」のもと、以下のような教育目標を掲げ、歯科医療や歯科医学の教育と研究におけるリーダーとして、国内外で活躍できる優秀な歯科医師を育成します。

### 1. 教育目標

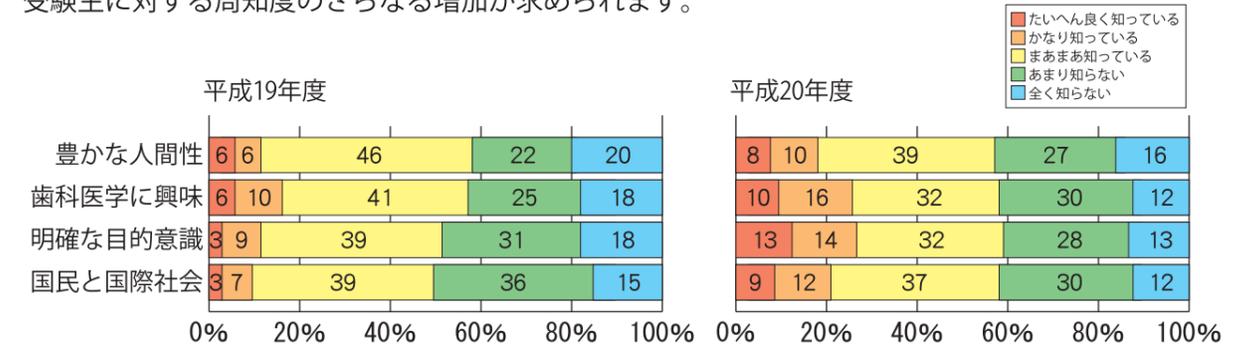
- (1) 高いコミュニケーション能力を有し、歯科保健医療を通じて社会に貢献できる歯科医師を育成する
- (2) 新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的歯科医師を育成する
- (3) 歯科医療のリーダーとして活躍できる高度な専門性を持ち、探究心にあふれる歯科医師を育成する

### 2. 求める学生像

- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、相手の気持ちを理解できる人
- (2) 歯科医療および歯科医学に興味を持ち、自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
- (3) 歯科医療および歯科医学について明確な目的意識を持ち、生涯を通じて学習意欲を持続できる人
- (4) 歯科医師として国民の健康増進、および国際社会に貢献しようという強い意欲を持った人

## 1) アドミッションポリシー (学部) の周知度

大学1年生における周知度を平成20年度と平成19年度で比較しました。わずかながら平成20年度では周知度が増加していました。アドミッションポリシーは大学の特色を示す所であり、受験生に対する周知度のさらなる増加が求められます。



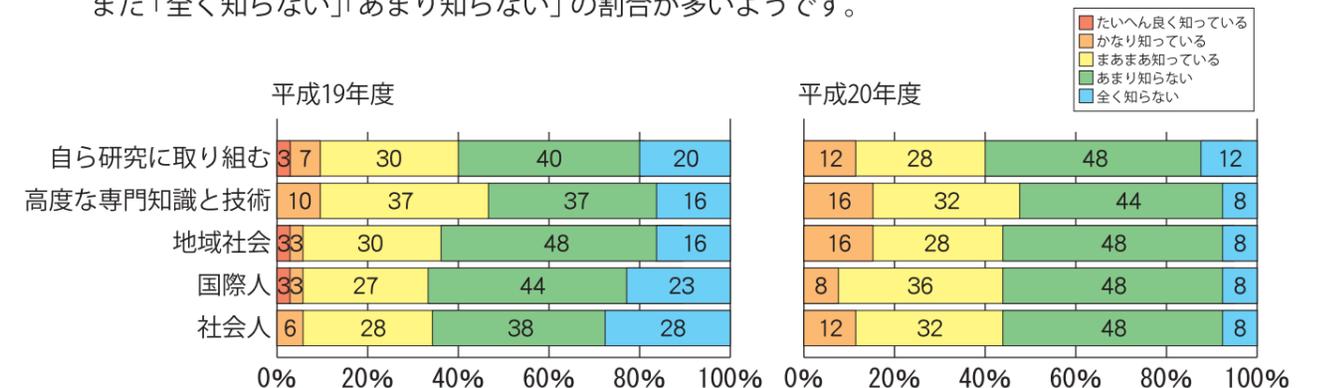
## アドミッションポリシー (大学院)

本学大学院歯学研究科では、その設置理念や目的に基づき、次のような人を広く求めます。

- (1) 歯学領域を中心とした生命科学の研究に強い興味を持ち、自ら研究に取り組んでいく意欲を持つ人
- (2) 高度な専門的知識と技術を身につけた臨床医あるいは教育・研究者として携わる意思を持つ人
- (3) 地域社会と連携した研究を推進しようとする人
- (4) 国際的な視野に立って世界をリードする研究を推進しようとする人
- (5) 社会人として勤務している傍ら歯学領域の研究に取り組む意欲と能力を持つ人

## 2) アドミッションポリシー (大学院) の周知度

平成20年度の方が平成19年度にくらべアドミッションポリシーの周知度が上昇しましたが、まだ「全く知らない」「あまり知らない」の割合が多いようです。



# 大学自己評価部会だより

第13号 (平成21年9月)

## 大学の理念

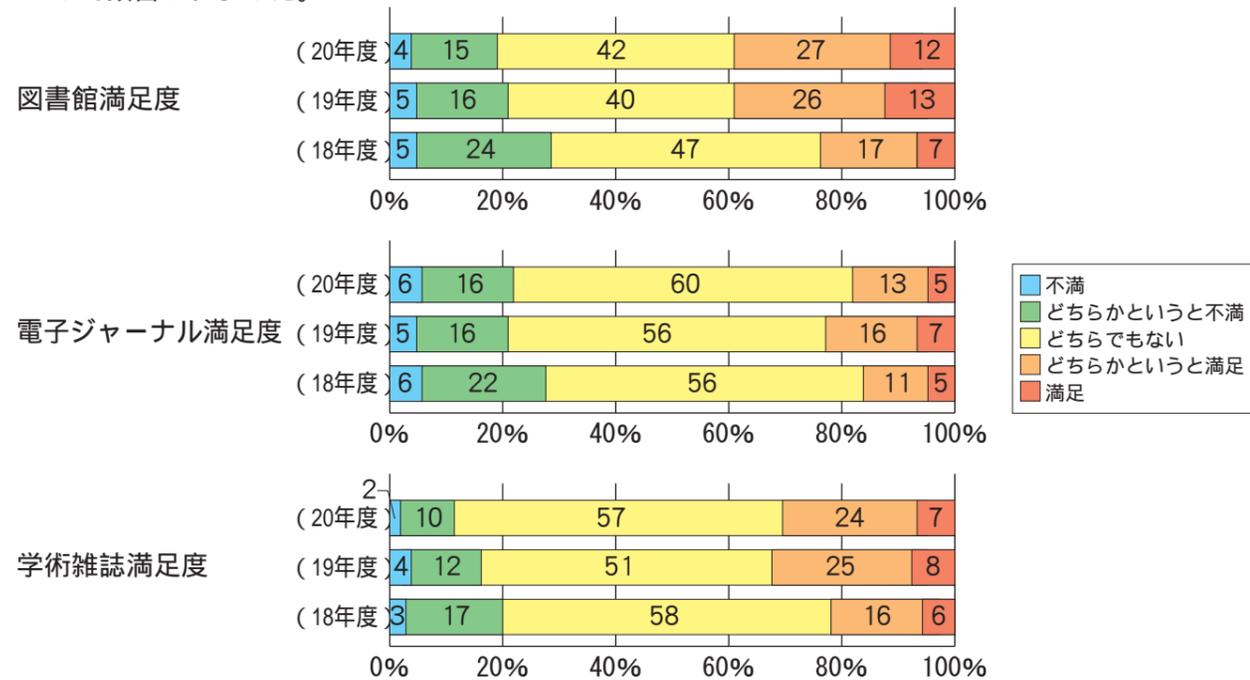
1. 高度な専門性を持った歯科医師の育成
2. 地域医療の中核的役割を果たす
3. 歯科医学を支える研究の推進

## アンケート調査結果を報告

学習環境満足度調査（学部学生）を平成18年度・平成19年度・平成20年度で行い、比較しました。平成18年度に比べて、多くの学習環境の満足度が改善されていました。

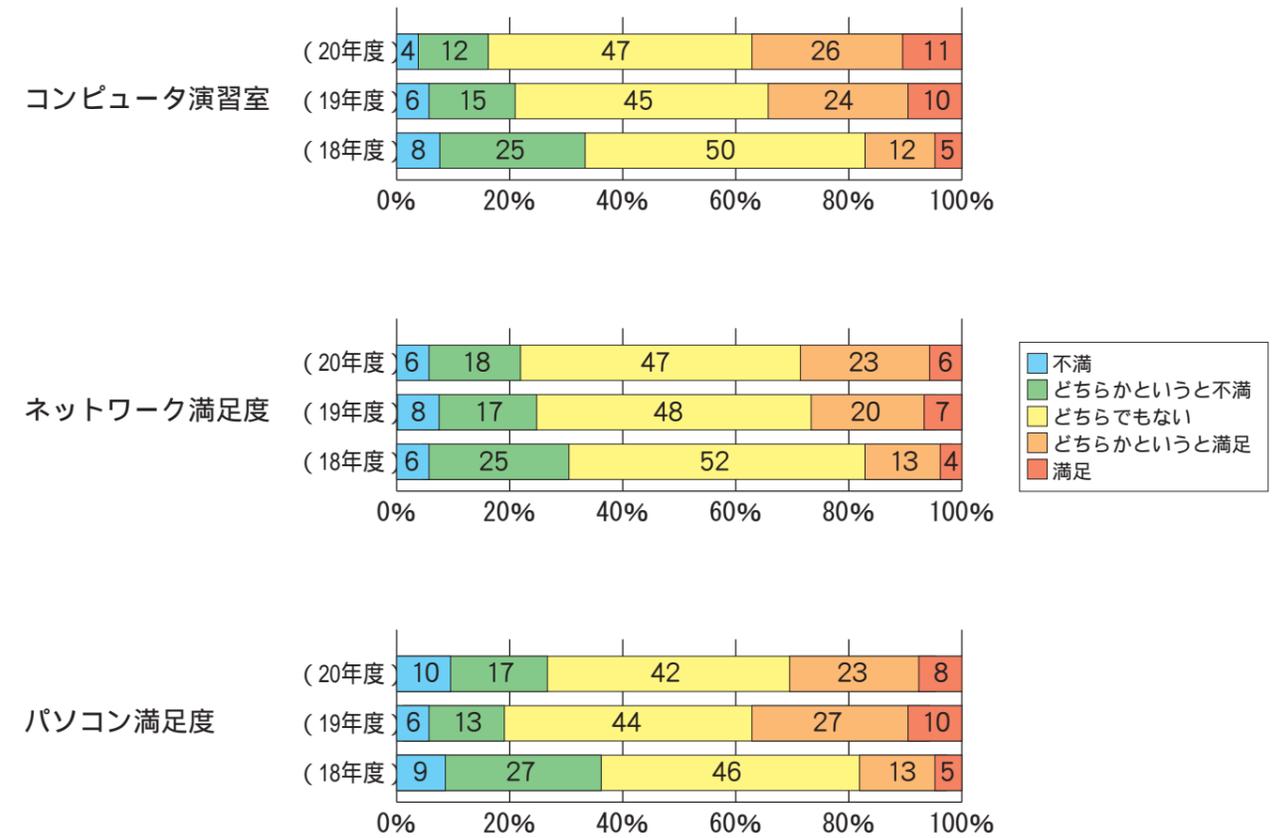
### 1) 図書館関連の満足度は改善

図書館、電子ジャーナル、学術雑誌の満足度が平成18年度に比べ、19年度・20年度と連続して改善されました。



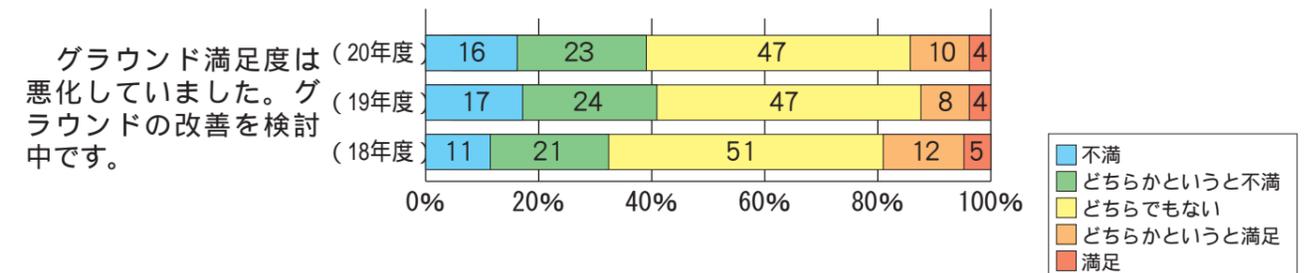
### 2) IT満足度も改善

平成19年度・20年度は18年度よりも満足度が改善されました。



### 3) 体育施設

体育館とグラウンドの満足度は改善しませんでした。



体育館満足度は、変わりませんでした。

# 大学自己評価部会だより

第14号 (平成21年11月)

## 大学の理念

1. 高度な専門性を持った歯科医療人の育成
2. 地域医療の中核的役割を果たす
3. 歯科医学を支える研究の推進

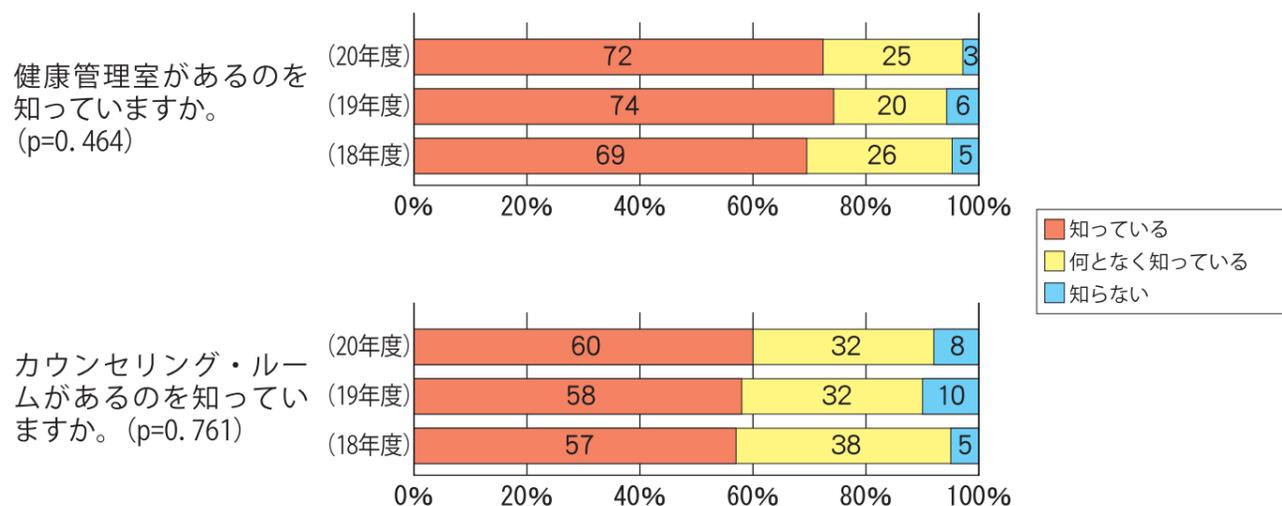
(理念1：新学科の設置申請にともない文言を変更)

## アンケート調査結果を報告

学生の実態把握に関するアンケート調査に関し、健康に関する相談室の認知度やアルバイトの状況などについて、平成18年度・平成19年度・平成20年度の3年間を比較しました。有意差を示すP値にはKruskal-Wallis検定を用いました。

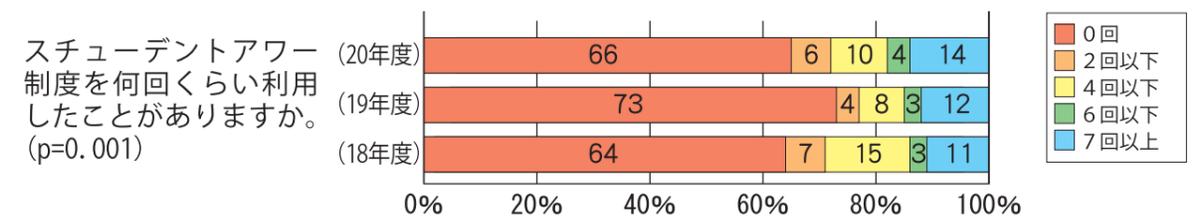
### 1) 健康に関する相談室の認知度

健康管理室とカウンセリング・ルームの存在を知っている割合はかなり高いのですが、3年間有意な増加傾向はみられず、今後さらに認知度を上げる努力が必要と考えています。



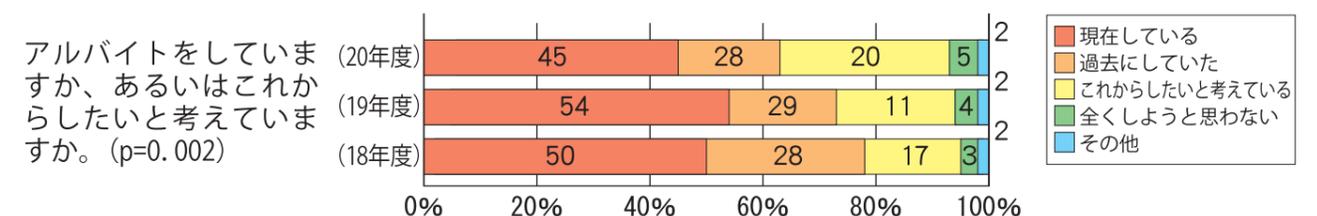
### 2) スチューデントアワー制度の利用

全体的に大きな変化は認められませんが、頻度高く利用している学生の割合並びに1・2年生の利用が高くなってきています。



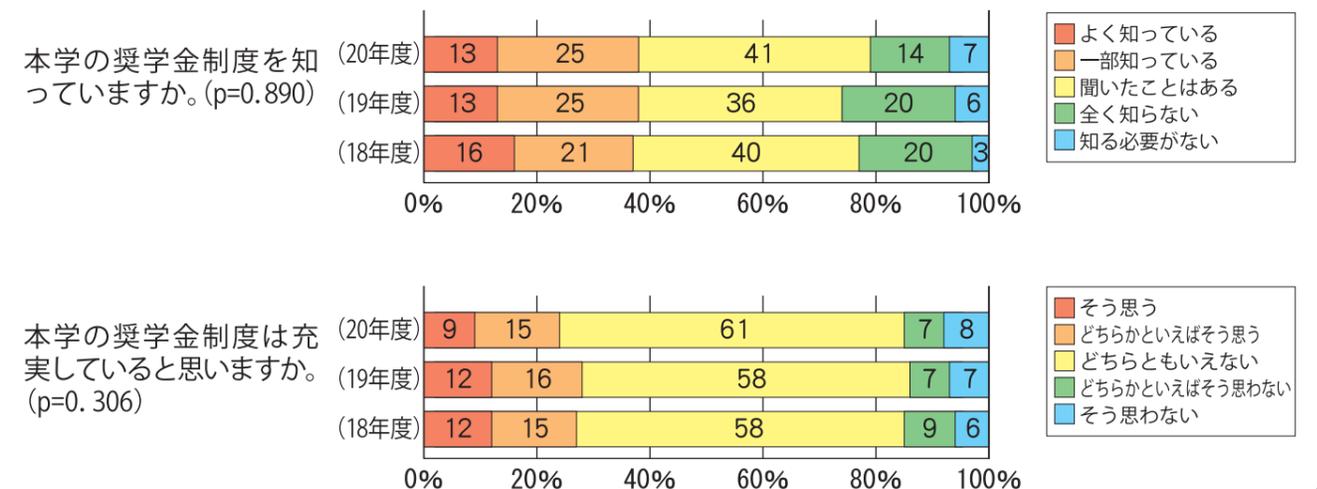
### 3) アルバイト

アルバイトをしたいと思っている人は多いのですが、実際にしている人は平成20年度には減少しました。



### 4) 奨学金

本学の奨学金制度を知っている割合は若干増加傾向にありますが、制度として充実していると思う割合は逆に若干減少傾向にあります。



# 大学自己評価部会だより

第15号 (平成22年1月)

## 大学の理念

1. 高度な専門性を持った歯科医療人の育成
2. 地域医療の中核的役割を果たす
3. 歯科医学を支える研究の推進

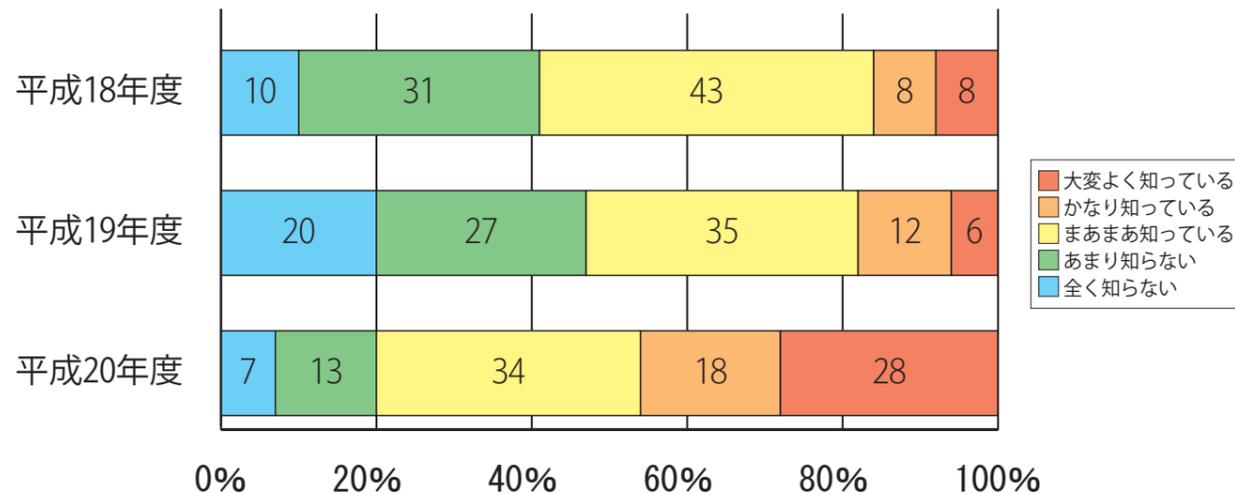
### アンケート調査結果を報告します

学部学生を対象とした大学理念の周知度、講義、実習および大学教育への満足度を平成18, 19, 20年度で比較しました

## 1) 大学理念の周知度

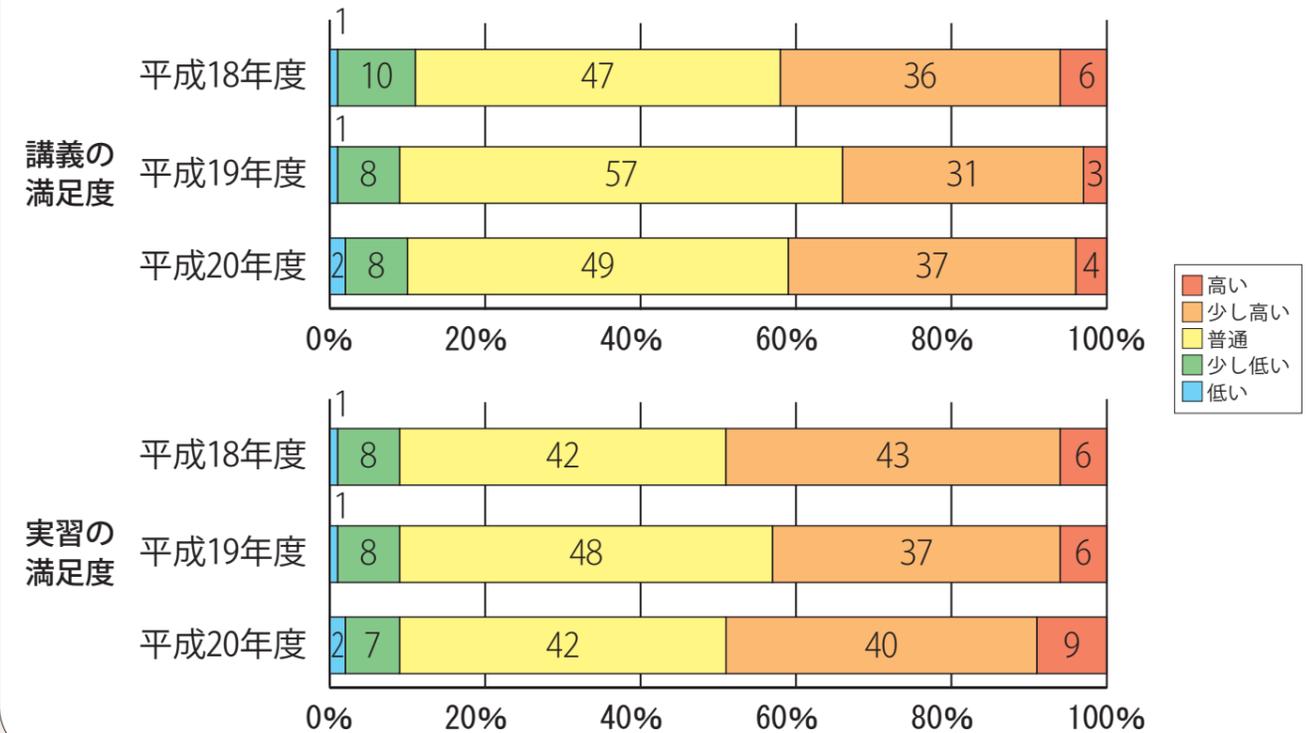
平成20年度は平成19年度に比べ、大変よく知っているおよびかなり知っているの割合の大幅な増加が認められました。それにもない、あまり知らないおよび全く知らないの割合の大幅な減少も認められました。

皆さん、さらなる大学理念の周知度向上を目指して頑張りましょう!!



## 2) 講義、実習の満足度

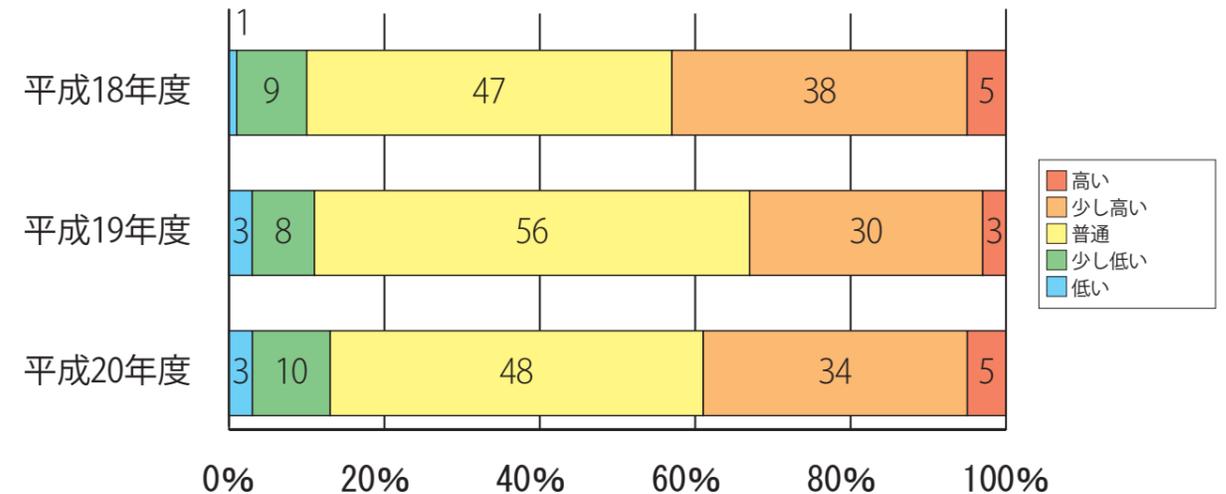
平成20年度は平成19年度に比べ、講義および実習ともに満足度の高いおよび少し高いの割合の増加が認められました。



## 3) 本学で受けた教育への満足度

平成20年度は平成19年度に比べ、大学教育への満足度の高いおよび少し高いの割合の増加が認められました。

今後はさらに大学教育への満足度が上がるように教育改善の努力をしていかななくてはなりません。



# 大学自己評価部会だより

第16号 (平成22年3月)

## 大学の理念

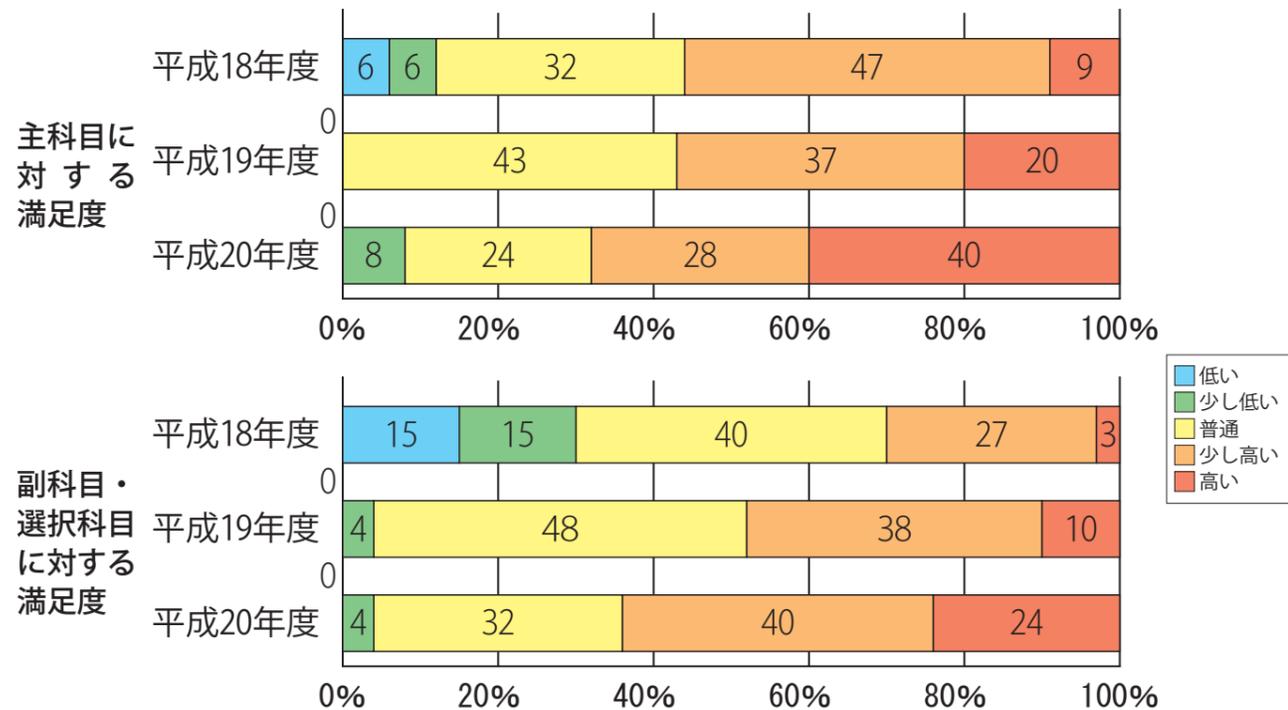
1. 高度な専門性を持った歯科医療人の育成
2. 地域医療の中核的役割を果たす
3. 歯科医学を支える研究の推進

## アンケート調査結果を報告

大学院生の履修科目についての満足度、履修の方法や制度の理解度および研究の実態などについて、平成18年度・平成19年度・平成20年度の3年間を比較しました。

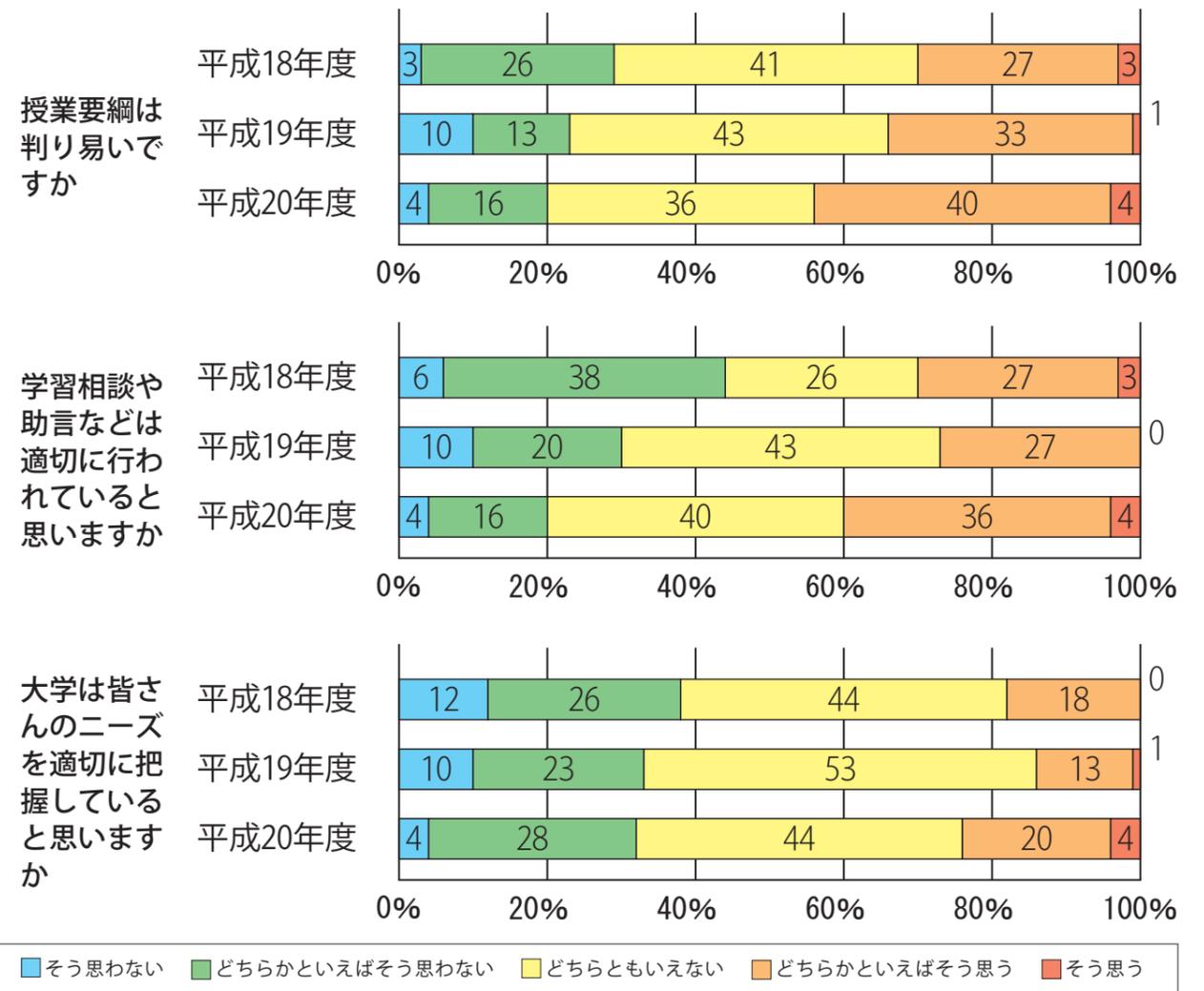
### 1) 主科目および副科目・選択科目に対する満足度

大学院では、平成19年度より副科目・選択科目の授業要綱を作成し、講義の充実を図ってきました。調査の結果、主科目、副科目・選択科目ともに満足度が増加していることが判りました。



### 2) 授業要綱や研究に関する相談などについて

授業要綱(シラバス)が判り易くなったという人は増加していますが、まだ改善の余地があるようです。学習相談(研究に関する相談)や助言などが適切に行われているか、あるいは大学院生のニーズを大学が把握しているかということについては、余り変動が認められませんでした。



### 3) 研究指導に対する満足度

研究指導に対する満足度は3年間で、徐々に高くなってきています。一方で、まったく満足していない人の割合も増加しています。

